

# 読解「ユリシーズ」——第15挿話より

——奇想天外な幻想場面——

米 本 義 孝

## はしがき

『ユリシーズ』は、アイルランドの首都ダブリンを舞台に、「1904年6月16日」での1日だけに時間を設定し、レオポルド・ブルームという中年男を中心にすえて、その妻モリー・ブルームや、悩める文学青年スティーヴン・ディーダラスなどのうごめく姿を描いた長編小説である。

筆者は、18章からなる『ユリシーズ』の前半部（第12章まで）のなかから、主人公ブルームに焦点をあてて全体の約二十分の一を選んで注をつけ、『読解「ユリシーズ」』として平成8年1月に研究社出版から初版を、平成11年4月にその再版を上梓した。今回ここでとりあげるのは、『ユリシーズ』の後半部分にある、第15章からの抜粋である。なお、作者ジェイムズ・ジョイス（1882-1941）は1922年に出版後、ホメロスの『オデュッセイア』を自作の拠り所として、各章ごとに“○ episode”と名付けた。本テキストもそれにならって各章を第○挿話「～」とする。

## 本書の利用法と凡例

- ①注の箇所では、抜き出した原文の次に、日本語で「～、の意」とあり、また「→」を付けて英語があるのは、その文や語句の意味であって、訳ではない。同じく注の箇所では、「p. 76③, L.9 参照」とあるのは「本書76頁の右上に③の印がついた、テキストの上から9行目を参照されたし」また「p. 76, 注 L.9 参照」とあるのは「本書76頁の“9…”の見出しの、注の説明を参照されたし」の意であって、ともにその頁の上からの行をいうのではない。
- ②人名や地名などの固有名詞は、あらずじでは日本語で表記した。注では、

## 2 (米本)

人名、地名、世界史、世界文学、学習英和などの辞典に記載されている固有名詞や作品名は日本語で表記し、そうでないものは一般的でない判断してあえて原文のままにしておいた。固有名詞の簡単なものは発音の表記は略し、ラテン語の発音がローマ字読みと同じ場合はその発音表記を略した。

- ③ジョイスによる造語のうち、2語以上の語からできている場合、各語の意味をとってつなげれば意味が通じる場合は、注は省略した。また、まぎらわしい品詞には略語を付けた。
- ④辞書と参考文献で表記を便宜上統一したものもある。各辞書の語義説明のなかの略語表記は、そのままのものもあるが、便宜上もとの綴りに直したものもある。
- ⑤扱っている範囲の挿話を明記する場合は次のようにした。(13.147-8/*RH*, 365) というのは、挿話ごとに行数が指定してあるガブラー新版(1984)では第13挿話の147行目から148行目までという意味であり、ランドム・ハウス旧版(1961)では365頁にあるという意味である。

頻繁に使用した英英辞典類は次のような略語で示す。他の辞書類からの引用は、それぞれ引用する箇所付記する。

<i>CCDEL</i>	<i>Collins Cobuild Dictionary English Language</i>
<i>CED</i>	<i>Collins English Dictionary</i>
<i>COD</i>	<i>The Concise Oxford Dictionary</i>
<i>Dial. Dic.</i>	<i>The English Dialect Dictionary</i>
<i>Dic. Slang</i>	<i>A Dictionary of Slang and Unconventional English</i>
<i>Dic. Symbols</i>	<i>Dictionary of Symbols and Imagery</i>
<i>LDCE</i>	<i>Longman Dictionary of Contemporary English</i>
<i>LDEI</i>	<i>Longman Dictionary of English Idioms</i>
<i>LDEL</i>	<i>Longman Dictionary of the English Language</i>
<i>LDPV</i>	<i>Longman Dictionary of Phrasal Verbs</i>
<i>NODE</i>	<i>The New Oxford Dictionary of English</i>
<i>ODEI</i>	<i>Oxford Dictionary of English Idioms</i>
<i>ODNR</i>	<i>The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes</i>
<i>ODPV</i>	<i>Oxford Dictionary of Phrasal Verbs</i>

OED                    *The Oxford English Dictionary*  
 SOD                    *The New Shorter Oxford English Dictionary*

なお、参考文献のうち、頻繁に引用する2冊、すなわち Weldon Thornton の *Allusions in Ulysses: An Annotated List* (Chapel Hill: University of North Carolina Press, 1968) は AU と略し、Don Gifford の *Ulysses Annotated: Notes for James Joyce's Ulysses* (Berkeley and Los Angeles: University of California Press 1988) は UA と略すことにした。

テキストはランダム・ハウス版(1961)を使用し、ガーランド社版(1984)を参考にして、若干手直した。

### 奇想天外な幻想場面 ——第15挿話より——

『ユリシーズ』のなかの第15挿話は、ブルームを主役とする登場人物たちのセリフとト書きとからなる演劇の形式になっており、真夜中のダブリンの娼婦街に舞台は設定されている。そのうち、現実には起こっていると思われる場面は短く、多くは奇想天外な幻想劇となっている。主人公ブルームの意識下での幻覚場面では、彼の死んでいる両親や家にはいるはずの妻モリーが登場したり、ブルームがアイルランドの国王になったり、八つ子を一度に生む奇跡をおこなったり、救世主と崇められたあと火あぶりの刑に処せられたり、妻とボイランの愛欲場面がブルームの目の前で展開したりする。この場合、他の人物の体験したことをブルーム自身が体験したかのように彼のセリフのなかにでてきたりする。また、この幻想の世界では、現れることのできない人間も登場し、たとえばブルームがまだ登場しない冒頭場面では、第13挿話で浜辺で遊び興じていた少女やその弟たちが深夜のこの娼婦街をうろついたりする。さらに第15挿話の特徴としてめだつのは、現実の場面なのか幻想の場面なのか、この両者の区別ができないことがあったり、元来は客観的な語りであるト書きで、登場人物の用いる言い回しそのまま使われ時には客観的な事実を伝えていない場合もあったり、人間以外の動物はもとより、扇子、帽子、絵に描かれたイチイの木、接吻などがセリフを言ったりすることなどである。

ここで取り上げるのは、第15挿話「キルケーの館」からの抜粋であり、主

人公ブルームの意識下での幻覚のなかで、彼の死んでいる両親や家にいるはずの妻モリーが登場する場面である。〈以下のテキスト①～⑤の出所 15.237-360/ RH, 437-41〉

①

---

*(Jacky Caffrey, hunted by Tommy Caffrey, runs full tilt against Bloom.)*

BLOOM

O

- 5 *(Shocked, on weak hams, he halts. Tommy and Jacky vanish there, there. Bloom pats with parcelled hands watchfob, pocketbookpocket, pursepoke, sweets of sin, potatosoap.)*

BLOOM

Beware of pickpockets. Old thieves' dodge. Collide. Then snatch your  
10 purse.

- (The retriever approaches sniffing, nose to the ground. A sprawled form sneezes. A stooped bearded figure appears garbed in the long caftan of an elder in Zion and a smokingcap with magenta tassels. Horned spectacles hang down at the wings of the nose. Yellow poison streaks are on  
15 the drawn face.)*

- 
- 1 **Jacky Caffrey, hunted by Tommy Caffrey** Jacky と Tommy は 4 歳になる双生児であり、第13挿話において Bloom がダブリンの東南にある Sandymount 海岸へ夕涼みにきているときに、そこに居合わせた Gerty MacDowell たちと遊び興じていた。Sandymount 海岸と今 Bloom のいる娼婦街界隈とは 2 マイル以上離れており、Sandymount 海岸の近くに住む幼い双子が真夜中にこの場所をうろついていることはまずありえない。このように、『ユリシーズ』第15挿話“Circe”は、現実にはありえないことが実際に起こっているように描かれているのが特質である。

**runs full tilt against** 「～に力いっぱいぶっかつていく」 (at full tilt=at full speed and with direct thrust; with full force or

- impetus (SOD).
- 5 **on weak hams** 「ひざががくつとしたので」 hams = plural the upper part of a person's or animal's legs (LDCE). 食用のハムのイメージに注意。  
**there, there** 「あそこ、あそこという間に」 2人いるから2度繰り返した。
- 6 **with parcelled hands** Bloom は、この直前に豚肉店で調理したなま暖かい「豚の脚肉」'crubeen' (p. 8, 注 L 5 参照) と冷たい「羊の脚肉」'trotter' とを買い (15.155-9/ RH, 434), それを入れた包みを今両手に持って歩いている。  
**pursepoke** poke = archaic a pocket worn on the person (SOD). この箇所が OED の 'purse' の項に用例として挙げられている。ただし, Gabler が訂正した 'pursepoke' でなく, 旧版の 'purse-pocket' で記載されている。
- 7 **sweets of sin** この日の午後, Bloom が屋台の貸本屋で妻 Molly のために借りた姦通小説の表題。10.585-641/ RH, 235-7, この日は上着 (喪服) の内ポケットに入れて持ち歩いている。  
**potatosoap** Bloom のズボンのポケットの一つに, お守り用のジャガイモ 'a hard black shrivelled potato' (15.1309-10/ RH, 476) と, 今朝公衆浴場に行く前に買った石鹸とが入っている。Bloom はこれらをこの日ずっと気にしている。'His hand looking for the where did I put found in his hip pocket soap lotion have to call tepid paper stuck. Ah soap there I yes.' (8.1191-2/ RH, 183) & 'The Providential. (he feels his trouser pocket) Poor mamma's panacea.' (15.201-2/ RH, 435).
- 9 **Old** old = skilled through long experience' (CED).
- 11 **A sprawled form** 今 Bloom が歩いている Mabbot 通りは薄暗く, そこにうずくまっている実体をはっきりと認識できない。form = a shape, especially one that you cannot see very clearly (LDCE).
- 12 **bearded** 昔ユダヤ人の長老や予言者はあご髭を伸ばしており, 現在でも正統派のユダヤ教徒はあご髭を伸ばしている。  
**garbed in** to be garbed in = literary to be dressed in a particular type of clothes (LDCE).
- 12-3 **of an elder in Zion** 「イスラエルの地の長老が着る」
- 13 **smokingcap** 「喫煙帽」 室内でくつろいで煙草を吸うときに被る

帽子。

**tassels** 「(帽子につける) 飾り房」 tassel=a tuft of loosely hanging threads or cords etc. attached for decoration to a cushion, scarf, cap, etc. (COD).

**Horned** 「角縁の」 horned=(1) provided, fitted, or ornamented with horn (2) crescent-shaped 「三日月型の」 (OED).

14 **the wings of the nose** 「小鼻；鼻翼」

14-5 **Yellow poison streaks . . . drawn face** Bloom の父 Rudolph [rúdolf] Virag はハンガリーに生まれ、各地を転々とした後、ダブリンに落ちつき、そこで姓を Virag から英国風に Bloom と改め、ユダヤ教からキリスト教に改宗した。彼は先祖の土地と宗教を捨てたことを悩んでいたが、今から18年前に自ら経営するホテルで原因不明の服毒自殺をした。第6挿話に、その時の様子の一部が 'Then saw like yellow streaks on his face' (6.362-3/ RH, 97) と言及してあった。

②

RUDOLPH

Second halfcrown waste money today. I told you not go with drunken  
goy ever. So you catch no money.

BLOOM

<sup>5</sup> (*hides the crubeen and trotter behind his back and, crestfallen, feels warm  
and cold feetmeat*) Ja, ich weiss, papachi.

RUDOLPH

What you making down this place? Have you no soul? (*with feeble vul-  
ture talons he feels the silent face of Bloom*) Are you not my son  
<sup>10</sup> Leopold, the grandson of Leopold? Are you not my dear son Leopold  
who left the house of his father and left the god of his fathers Abra-  
ham and Jacob?

BLOOM

(*with precaution*) I suppose so, father. Mosenthal. All that's left of

him.

15

RUDOLPH

(*severely*) One night they bring you home drunk as dog after spend your good money. What you call them running chaps?

BLOOM

(*in youth's smart blue Oxford suit with white vestslips, narrowshouldered, in<sup>20</sup> brown Alpine hat, wearing gent's sterling silver Waterbury keyless watch and double curb Albert with seal attached, one side of him coated with stiffening mud*) Harriers, father. Only that once.

RUDOLPH

Once! Mud head to foot. Cut your hand open. Lockjaw. They make<sup>25</sup> you kaputt, Leopoldleben. You watch them chaps.

BLOOM

(*weakly*) They challenged me to a sprint. It was muddy. I slipped.

RUDOLPH

(*with contempt*) *Goim nachez!* Nice spectacles for your poor mother! 30

1-30 **RUDOLPH/Second halfcrown . . . poor mother!** Bloom は、ユダヤ人からみて異邦人たるキリスト教徒と交際して無駄遣いしたり、娼婦街に足を踏み入れるという、彼の心の奥底に潜む罪の意識から、その脳裏に父親 Rudolph の幻影をみている。

S. Gilbert によれば、Rudolph がここで使っている言葉は「イデシユ語託りの英語」(主にドイツ以東の国々に住むユダヤ人によって用いられる、高地ドイツ語方言にヘブライ語とスラブ語の混じった語) であるという。James Joyce's *Ulysses*, p. 326. 以下の Rudolph の英語が変則的であることに注意。

- 2 **Second halfcrown waste money**=Second halfcrown, you wasted your money → You wasted another halfcrown
- 3 **goy**=n. (*plural goyim/ or goys*) *slang offensive* a Jewish name for a non-Jew (COD) [(ユダヤ人からみた) 異教徒]

- catch** to catch = *obsolete* to gain or obtain (e. g. money) by one's own action (*OED*).
- 5 **hides the crubeen . . . his back** Bloom の父 Rudolph は、この場面では典型的なユダヤ人として登場しているが、ユダヤ教においては豚肉は不浄な食べ物とされている。crubeen = *Anglo-Irish* the foot of an animal; *esp.* a (cooked) pig's trotter (*SOD*).
- 6 **Ja, ich weiss, papachi.** [ja iç váis papátsi] = German: Yes, I know, father.
- 8 **What you making down this place?** → What are you doing down in this place? Rudolph 特有のイデイシュ語訛りの英語。
- 8-9 **feeble vulture talons** 「弱々しいハゲタカの鉤爪のような指」 'feeble' と 'vulture talons' という撞着語法が老人の指を見事に描きだしている。talons = *plural* the claws (or less usually in *singular* any claw) of a bird or beast: allusively applied to the grasping fingers or hands of human beings (*OED*).
- 10 **the grandson of Leopold** Leopold Bloom の祖父 (すなわち Rudolph の父) は Lipoti Virag。 Bloom の名前の Leopold は Lipoti から採った。
- 10-2 **Are you not . . . and Jacob?** 背教のユダヤ人を主人公としたドイツ語劇 *Debora* (1850) をもとにした *Leah* という翻訳劇があり、今朝 Bloom は父 Rudolph が生前その中のセリフの一部を彼に語って聞かせてくれたことを思い出していた。その思い出した劇中のセリフとは、Abraham という盲目の老人が主人公 Nathan をその声から正体を見破って呼びかけた、'Nathan's voice! His son's voice! I hear the voice of Nathan who left his father to die of grief and misery in my arms, who left the house of his father and left the God of his father.' (5.203-5/ *RH*, 76) である。  
Rudolph 自身、ユダヤの家と宗教を捨てた張本人でありながら、その彼がユダヤの民俗衣装をまとい、このようなセリフをはいてキリスト教徒に成り下がったとして息子 Bloom に小言をいうこと自体矛盾している。こういった矛盾も第15挿話の特徴の一つである。
- 11-2 **Abraham and Jacob** [dʒéikəb] 旧約聖書において、イスラエルの始祖 Abraham の子 Isaac は、晩年盲目となり、家督相続を決める際、長男 Esau を装った次男 Jacob に対し、'The voice is Jacob's voice, but the hands are the hands of Esau' (Genesis



27:22) と言いながらも、その策略によって Jacob に祝福をあててしまった、という。第5挿話において、Bloom の意識のなかで、Leah の人間関係と旧約聖書のなかの人間関係とが重なりあっていた。ここでは、Bloom と父の関係と Leah の人間関係と旧約聖書のなかの人間関係とが重なりあっている。

14-5 **Mosenthal. All that's left of him.** ここは Bloom の一人ぜりふであろう。

14 **Mosenthal** [móuzenta:l] ドイツ系オーストリア人の劇作家 S. H. Mosenthal (1821-77)。彼のドイツ語劇 *Deborah* (1850) をもとにして英語に翻案したのが Daly 作の *Leah* である。第5挿話で、Bloom は *Leah* のもととなったドイツ語劇の作品名とその作者名を必死になって思い出そうとしていた。(5. 199-200/ *RH*, 76) 今父親のセリフを聞くうちに、*Deborah* の作者名が蘇ったのであろう。

14-5 **All that's left of him** 冒頭に 'I am' を補って読む。him は your son Leopold を指す。ここは、あなたの息子の Leopold の成れの果てです、の意。

17 **drunk as dog** = very drunk 犬はユダヤ人から邪悪な動物と見なされ、旧約聖書においては嫌われる動物として言及されることが多い。

18 **What you call them running chaps?** この言い回しに彼の苦々しく思う気持ちがでており、彼はその名前を知っていてわざと聞いているのかもしれない。

**them** = *determiner slang or dial. those (COD)*

20-3 **in youth's smart . . . stiffening mud** Bloom は、友人であった Dignam の葬儀に午前中に参列し、一日中喪服を着たままであるのに、この場面では英国風の装いで登場している。Rudolph の典型的なユダヤ人の装いとは対照的に、その子 Bloom は、英国かぶれしたという設定のため、イギリス人の装いなのであろう。

20 **Oxford suit** 生地なのか、裁断の型なのかは不詳であるが、オックスフォードで流行したのであろう。Oxford blue = a dark shade of blue, adopted as the colour of the university (*OED*).

**vestslips** 「チョッキ」 vest-slip = a short garment worn beneath the coat or jacket as a usual part of male attire ; a waistcoat (*OED*).

**narrowshouldered** 「肩幅のせまい」 'oxford suit' に掛かる。shouldered = provided or fitted with shoulders, esp. of a speci-

fied kind (SOD).

- 21 **Waterbury keyless watch** Waterbury [wɔ:təbəri] はアメリカの Connecticut 州にある都市で、時計の製造地として有名。keyless watch = *British*: stem-winder (*Webster's Third New International Dic.*) 「<sup>りゅうイ</sup>竜頭巻き時計」

- 22 **and double curb Albert** 「二重アルパート鎖に付けた」馬用の 'curb chain' 「くつわ鎖」から判断すると、装飾も兼ねて時計が落ちないようにするための、服に付けた鎖であろう。Albert 公が使用し、これが宮廷に広がり、さらに一般的に流行したと思われる。Albert 公はクリスマスツリーをドイツからイギリスにもちこんだことで有名。Albert = Albert chain = [named after Prince Albert, the Consort of Queen Victoria.] a kind of watch-chain (OED). この箇所が OED の 'Albert' の項に用例として挙げられている。

**with seal attached** 「封印のくっついた」

- 23 **Harriers** harrier = plural cross-country runners as a group or club (SOD).

**that once** = that time only (OED).

- 25 **open** = medicine (of a wound) exposed to the air (SOD) 「傷の口が開いた」

- 25-6 **They make you . . . them chaps.** やつらは Leopold の生活をめっちゃめっちゃにするぞ、の意。

- 26 **kaputt** = slang [German *kaputt*] finished, worn out; dead or destroyed (OED).

**Leopoldleben** [lɪ:opɔltle:bən] leben はドイツ語で life の意。ドイツ語の 'kaputt' に対照させた造語で、親しみをこめた呼びかけとなっている。

**watch** = watch out for = beware of

- 30 **Goim nachez!** [gáúim néiféi] = *Yiddish*: "The proud pleasure (special joy) of the Gentiles (in scorn)" (UA, p. 457).

**Nice** ここでは反語として使われており、'foolish, stupid, senseless' (SOD) の意である。

**Nice spectacles for your poor mother!** 'nice' は反語で、'foolish, stupid, senseless' (SOD) の意である。ここは「ことばの滑稽な誤用」(malapropism) の効果があり、イデイシュ語訛りの英語を使う Rudolph が単数を間違えて複数としたために「素晴らし

い眼鏡」 という意味になってユーモラスである。

③

BLOOM

Mamma!

ELLEN BLOOM

(*in pantomime dame's stringed mobcap, widow Twankey's crinoline and bustle, blouse with muttonleg sleeves buttoned behind, grey mittens and cameo brooch, her plaited hair in a crispine net, appears over the staircase banisters, a slanted candlestick in her hand, and cries out in shrill alarm*) O blessed Redeemer, what have they done to him! My smelling salts! (*She hauls up a reef of skirt and ransacks the pouch of her striped blay petticoat. A phial, an Agnus Dei, a shrivelled potato and a celluloid doll fall out.*) Sacred Heart of Mary, where were you at all at all?

(*Bloom, mumbling, his eyes downcast, begins to bestow his parcels in his filled pockets but desists, muttering.*)

- 3 **ELLEN BLOOM** Bloom の母 Ellen Higgins Bloom。Bloom の父 Rudolph が典型的なユダヤ人男性としての衣装をまとい、イディッシュ訛りの英語で話すのにたいし、ここでの Bloom の母 Ellen はアイルランド女性としての衣装をまとい、アイルランドカトリック女性の使いそうな言葉と内容で語りかけている。ただし、Bloom が最初に洗礼を受けたのはプロテスタント教会であることを考えれば、Ellen はプロテスタントであるはずなのに、ここでの彼女の言動はカトリック女性のそれになっている。
- 4 **in = wearing** 目的語は 'pantomime dame's stringed mobcap' から 'cameo brooch' まで。
- pantomime dame's** 「おとぎ芝居に出てくる滑稽なおばちゃんの」 pantomime dame = *British* the role of a comic old woman in a pantomime, usually played by a man (CED). この箇所が OED の 'pantomime' の項に用例として挙げられている。

- stringed mobcap** 「あごの下で紐を結ぶ婦人用室内帽」 mobcap = *with historical reference* a woman's large indoor cap covering all the hair, worn in the 18th and early 19th c. (COD).
- widow Twankey's** ダブリンの劇場でクリスマスにおとぎ話や民話を題材にした芝居が上演され、そのなかで *Aladdin and the Wonderful Lamp* が人気があった。Twankey [twáɲki] 未亡人は Aladdin の母親として設定されていたという。AU, p. 362 と UA, p. 457 参照。
- 4-5 **crinoline and bustle** 「腰当てをつけた張り入りスカート」 crinoline = a padded or hooped framework supporting a full skirt; also such a skirt worn by women in the mid 19th century (LDEL). bustle = *historical* a pad or frame worn to puff out the top of a woman's skirt at the back (SOD).
- 5 **muttonleg sleeves** 「羊の脚の形をした袖」 mutton-leg sleeve = leg-of-mutton sleeve = one very full and loose on the arm but close-fitting at the wrist; a gigot-sleeve (OED). この箇所が OED の 'mutton' の項に用例として挙げられている。
- 6 **in a crispine net** 「クリスピー地のネットをかぶって」 crisp = *Middle English* a light fabric like crêpe; a head-covering or veil made of this (SOD). 'crisp' に 'ine' という接尾語を付けた造語。
- 7-11 **O blessed Redeemer . . . at all ?** 大げさな身振りと表現は芝居がかったものであり、笑劇の雰囲気を漂わせている。
- 7-8/11 **O blessed Redeemer/ Sacred Heart of Mary** こういう言葉がすぐ口に出ることから、Ellen はカトリック女性となる。注 1.3 と注 1.10 注参照。
- 8 **My smelling salts!** 上流階級の女性はスタイルをよく見せるためきつく締めつけた服装をした。そのため、呼吸が困難になり女性としてのか弱さを強調することもあってすぐ気絶し、「気付薬」を常備していることがあった。Ellen の上流階級志向が彼女の服装とともにこのあたりにも見られる。
- 9 **reef** スカートのひだ布のことであろう。ひだスカートを船の縮帆部のイメージで用いた。
- ransacks** to ransack = thoroughly to search (a place, a receptacle, a person's pockets, one's conscience, etc.) (COD).
- pouch** pouch = a (detachable) outside pocket worn on the front of a garment (SOD).

**blay** この語は, blae の変形した語であり, アイルランド語として使われるときには, dingy-coloured, “grey” as opposed to white; unbleached’ (OED) 「すすけた色の」の意もあるが, D. Gifford は ‘English dialect: “blue linen”’ (UA, p. 457) としている。

この15挿話では, ト書に登場人物の用いそうな言い回しがあるがそのまま使われているのが特徴。

- 10 **an Agnus Dei** Agnus Dei = a wax medallion stamped with a lamb as emblem of Christ and blessed by the pope [Latin; Lamb of God] (CED) 「[ローマ・カトリック] 神の子羊の像を印し教皇の祝福を受けた蟻製のメダル」
- a shrivelled potato** 既出。p. 5, 注1.7参照。
- 11 **Sacred Heart of Mary** 「[カトリック] マリアの聖心; ああマリア様」 Sacred Heart = (1) the heart of Jesus, regarded as an object of devotion; similarly, *Sacred Heart of Mary*. (Roman Catholic Church) (2) *transf.* a form of prayer used in private devotions to the Sacred Heart (OED). マリア信仰はプロテスタントにはなく, カトリック教徒のものである。すると, Ellen Bloom はプロテスタントであるのに (注1.3参照), ここではカトリック教徒になってしまう。Bloom の幻想のなかで Ellen と Molly とが重なっているのであろうか。
- 12 **bestow** to bestow = *archaic* to place, locate, put (SOD) 「いれる」 ‘desists’ も文語であることに注意すると, ここでのト書きは, 復古調の舞台背景にあわせた古臭い文体といえる。

④

## A VOICE

(*sharply.*) Poldy!

## BLOOM

Who? (*he ducks and wards off a blow clumsily*) At your service.

(*He looks up. Beside her mirage of datepalms a handsome woman in 5 Turkish costume stands before him. Opulent curves fill out her scarlet trousers and jacket, slashed with gold. A wide yellow cummerbund gir-*

*dles her. A white yashmak, violet in the night, covers her face, leaving free only her large dark eyes and raven hair.)*

10 BLOOM

Molly!

MARION

Welly? Mrs Marion from this out, my dear man, when you speak to me. (*satirically*) Has poor little hubby cold feet waiting so long?

15 BLOOM

(*shifts from foot to foot*) No, no. Not the least little bit.

(*He breathes in deep agitation, swallowing gulps of air, questions, hopes, crubeens for her supper, things to tell her, excuse, desire, spellbound. A coin gleams on her forehead. On her feet are jewelled toerings. Her ankles are linked by a slender fetterchain. Beside her a camel, hooded with a turreting turban, waits. A silk ladder of innumerable rungs climbs to his bobbing howdah. He ambles near with disgruntled hind-quarters. Fiercely she slaps his haunch, her goldcurb wristbangles angriling, scolding him in Moorish.*)

20

25 MARION

Nebrakada! Femininum!

(*The camel, lifting a foreleg, plucks from a tree a large mango fruit, offers it to his mistress, blinking, in his cloven hoof, then droops his head and, grunting, with uplifted neck, fumbles to kneel. Bloom stoops his back for leapfrog.*)

30

BLOOM

I can give you . . . I mean as your business menagerer . . . Mrs Marion . . . if you . . .

MARION

35 So you notice some change? (*her hands passing slowly over her trinketed stomacher, a slow friendly mockery in her eyes*) O Poldy, Poldy, you are

a poor old stick in the mud! Go and see life. See the wide world.

---

- 5-9 (**He looks up . . . raven hair.**) Bloom にはオリエントへの憧れがある。第4挿話で、朝食用の肉を買いに行くときに、東方の国を歩いている気分ひたっていた (4.84-98/ *RH*, 57)。第13挿話では Sandymount の岸辺で瞑想に耽るなかで、‘Dreamt last night? Wait. Something confused. She [Molly] had red slippers on. Turkish. Wore the breeches. Suppose she does?’ (13.1240-1/ *RH*, 381) と、昨夜の夢のなかで妻 Molly がトルコ衣装を着ていたことを思い出していた。また、‘raven hair’で豊かな胸をした Molly については、第12挿話で、‘Pride of Calpe’s rocky mount, the ravenhaired daughter of Tweedy. There grew she to peerless beauty where loquat and almond scent the air... The chaste spouse of Leopold is she: Marion of the bountiful bosoms.’ (12.1003-7/ *RH*, 319) と言及されていた。

Bloom の母 Ellen のカトリックの中年女性の服装と対照的に、肉感的な Molly は東洋女性の衣装で登場。

- 5 **Beside her mirage of detepalms** = With her mirage of datepalms besides Molly の登場に付随して舞台に現れた小道具。  
**mirage** 次の ‘datepalms’ 「ナツメヤシ」とともに、東方の風物である。
- 6 **Opulent curves** この日の午後、Bloom は屋台の古本屋で *Sweets of Sin* という好色本を拾い読みした際、‘Her mouth glued on his in a luscious voluptuous kiss while his hands felt for the opulent curves inside her deshabelle’ (10.611-2/ *RH*, 236) という文章が目にとまり、それ以後小説の女主人公と妻 Molly とが Bloom の頭の中で重なりあう。たとえば、Molly と Boylan との情事を想像する際に、Bloom は ‘Hands felt for the opulent’ (11.692/ *RH*, 274, 13.969-70/ *RH*, 373) と頭に浮かべている。opulent = in physical development; plump [from French] (*OED*) 「豊かな」
- 7 **slashed with gold** 「金色の切れ込みの入った」 to slash = to cut slits in (e.g. a garment) so as to reveal an underlying fabric or colour (*LDEL*).
- cummerbund** 「カマーバンド」 cummerbund = [Urdu and Persian *kamar band*, i.e. loin-band.] a sash or girdle worn round the

waist; a waist-belt (*OED*).

- 8 **violet** Bloomにとってこの色は、ロマンチックな黄昏を連想させるとともに、セクシャルな色としてここまでの挿話でしばしば言及されている。なお、第13挿話に‘Why I [Bloom] bought her [Molly] the violet garters’ (13.799-800/ *RH*, 368) とある。

- 13-4 **Welly? Mrs Marion . . . so long?** Bloomに被虐趣味があることは第4挿話以後散見されるが、この幻想場面でのMollyとのやり取りにもそれが感じられる。すると、この場面でのMollyの言動はサディストのそれとなる。

- 13 **Welly?** → Well, what? 「ん、なに?」 Molly [máli] に対し、Welly [wéli] と聞き返すことによって、ここは語呂合わせをした言葉遊びになっている。

**Mrs Marion from this out** → Address me as Mrs Marion from now on Bloomの妻に対する呼び方は、正式にはMrs Leopold Bloom。普通はMrs Bloomであって、Mrs Marionは正しくない。今朝BoylanからMolly宛の手紙をBloomが見つけた際の情景は、‘Mrs Marion Bloom. His [Bloom’s] quickened heart slowed at once. Bold hand. Mrs Marion./—Poldy!’ (4.244-6/ *RH*, 61) とあり、BloomがMrs Marionの次にBloomと意識する直前に、MollyがPoldyと呼んだことになっている。それがBloomの意識に残り、この幻想場面でのMollyのセリフとなったのであろう。

**from this out** = *colloq.* henceforth, from now on (*SOD*).

**my dear man** ここでは皮肉をこめた呼びかけ。dear = as a merely polite or ironic form (*my dear man*) (*COD*).

- 14 **Has ~ cold feet** 文字どおり「足が冷えたのか」の意だが、‘to have cold feet’には‘to refuse to proceed through fear or cowardice’ (*SOD*) 「怖じ気づく」という比喩的な意味がある。

**poor little hubby** [(皮肉をこめて) かわいそうで愛しい旦那様] hubby = a familiar colloquialism for HUSBAND (*OED*).

- 16 **Not the least little bit** ‘Not at all’の意であり、‘Not the least bit’をさらに強めるために‘little’を付け足したのである。

- 17 **He breathes in deep agitation** Bloomの性的倒錯の現れと解釈できないだろうか。

- 17-8 **gulps of air . . . excuse, desire** マゾヒズムの性向のあるBloomの興奮状態を抽象的な語と具体的な語とをまじえて伝えている。



- 18 **spellbound** 主語 'he' の状態を説明した語。
- 21 **turreting** 「小塔の形になっている」 to turret = to adorn (as) with a turret or turrets (SOD).
- 22-3 **disgruntled hindquarters** 「むっとした尻」『ユリシーズ』にはこのような意表を突く擬人化が多い。
- 23-4 **her goldcurb wristbangles angriling** 前に with を補って読む。
- 23 **goldcurb wristbangles** 「(留め金のない) 金の手首輪」 金で縁取られているのか、あるいは形が curb chain 「くつわ鎖」に似ているのであろうか。なお、この箇所が OED の 'wrist' の項に用例として挙げられている。
- 23-4 **wristbangles angriling, scolding** 音のつながりの効果が見られる。
- 24 **angriling** 「腹を立てたようにさせて」 'angering' と 'angrily' をもとにした、ジョイスの造語。

**in Moorish** = *in the Moorish language* 「ムーア語で」 ここでいうムーア語とは、ムーア人によって用いられたアラビア語をいうのであろう。第13挿話で、Bloom は Molly のことを '... Molly can knock spots off them [the women]. It's the blood of the south. Moorish. Also the form, the figure. Hands felt for the opulent.' (13.968-70/RH, 410), さらに 'She [Molly] leaned on the side-board watching. Moorish eyes' (13.1114-5/ RH, 377) と空想していた。

- 26 **Nebrakada! Femininum** [femininəm]! 『ユリシーズ』の副主人公 Stephen Dedalus がこの日の午後古本屋で立ち読みした本に、'se el nebrakada femininum! Amor me solo! Sanktus! Amen' という呪文を唱えれば麗しい女性と出会うという記事があった (10.848-9/ RH, 242)。Gifford は、この呪文はスペイン語、アラビア語、ドイツ語などの混成語であり、'Nebrakada femininum' を 'blessed femininity' と解釈している (UA, p. 277)。なお、'nebrakada' には呪文の言葉として有名な abracadabra の響きがあり、アラビアの魔法的な雰囲気を感じられる。Molly は、Bloom とともに、Stephen の立ち読みした本のなかの文句を当然知らないはずである。このように、第15挿話では、ある人物の体験や見聞がその人物を越えて、他の人物が自ら体験し見聞したかのようにその人物の思考や言葉のなかにでてくる。

- 27-30 **The camel, lifting . . . for leapfrog** camel や mango は東方の熱

- 帯地方を連想させる。この場面について、H. Kenner は ‘This camel, a comic detail, turns into a self-projection of Bloom’s, as Bloom acknowledges in stooping “for leapfrog” as the camel kneels.’ (*James Joyce’s Ulysses*, p. 355) と述べている。
- 28 **in his cloven hoof** 「彼の偶蹄（二つに分かれたひづめ）の間にはさんで」 cloven hoof = (1) the divided hoof of a pig, goat, cow, deer, or related animal, which consists of the two middle digits of the foot. (2) the mark or symbol of Satan (*CED*). (2) の意から、ここには異国情緒漂うイスラム教徒が悪魔にも見えるというニュアンスが感じられる。
- 30 **for leapfrog** 「馬跳び遊びのために」 前かがみになった人の背を順番に跳び越える遊び。
- 32 **your business menagerer** H. Blamires は、‘menagerer’ を ‘manager’, ‘menage’, ‘menagerie’ の混ざり合った語としている。*The New Bloomsday Book*, p. 155. Bloom の妻 Molly は、現在彼女の business manager である Blazes Boylan と密通しており、それが Bloom の悩みの種である。
- 35-6 **So you notice . . . her eyes** Molly は、Bloom の途切れ途切れの言葉を ‘I can give you help making arrangement of abortion, I mean as your business manager, Mrs Marion, if you want it’ というように解釈したのであろう。この箇所について、S. Sultan は、‘she suggests that she is pregnant, reflecting Bloom’s disturbance about that possible result of her liaison.’ (*The Argument of Ulysses*, p. 313) と述べている。
- 35 **trinketed** 「小間物で装飾した」 to trinket = *rare*. to deck out with trinkets. Hence ‘trinketed’ ppl. a. (*rare*) (*OED*). この箇所が *OED* の ‘trinket’ の動詞の項に用例として挙げられている。
- 36-7 **O Poldy, Poldy . . . wide world** Molly は Bloom から道徳的な非難を受けたと思いい、開き直って逆に Bloom を責める感じで、自己防御の言葉を吐いている、と解釈したい。
- 37 **old stick in the mud** 「くそ親父」 stick-in-the-mud = contemptuously used for: a helpless or unprogressive person; one who lacks resource or initiative (*OED*). U. Schneider によれば、19世紀末頃ミュージックホールで歌われた、新しい女性の振る舞いに呆れ果てている時代後れの婦人を主題にした、“At My Time of Life” のなかの ‘There was none o’yer “Highty flighty” girls, yer

“Hi-Tiddley Hity” girls,/ When my old “Stick-in-the mud” took me for a wife,/ Now fancy me a-smoking “fags,” riding bikes and wearin’ bags, / A-leaving off my bits o’ rags,/ At my time of life’ (*Picking Up Airs*, p. 93) の響きがあるとのこと。

**stick in the mud** この語句は、第13挿話で、Bloom が浜辺で夕涼みをしているときに、その直前に自慰行為をしたことを思い浮かべて ‘My fireworks. Up like a rocket, down like a stick’ (13.894-5/ *RH*, 371) と独白し、またそばにころがっていた棒切れを彼が投げ捨てたときの描写に ‘The stick fell in silted sand, stuck.’ (13.1270/ *RH*, 382) とあったことを連想させる。

⑤

## BLOOM

I was just going back for that lotion whitewax, orangeflower water. Shop closes early on Thursday. But the first thing in the morning. (*he pats divers pockets*) This moving kidney. Ah!

(*He points to the south, then to the east. A cake of new clean lemon soap<sup>5</sup> arises, diffusing light and perfume.*)

## THE SOAP

We’re a capital couple are Bloom and I.

He brightens the earth. I polish the sky.

(*The freckled face of Sweny, the druggist, appears in the disc of the<sup>10</sup> soapsun.*)

## SWENY

Three and a penny, please.

## BLOOM

Yes. For my wife. Mrs Marion. Special recipe.

15

## MARION

(*softly*) Poldy!

BLOOM

Yes, ma'am?

MARION

*Ti trema un poco il cuore?**(In disdain she saunters away, humming the duet from Don Giovanni, plump as a pampered pouter pigeon.)*

BLOOM

25 Are you sure about that *Voglio?* I mean the *pronunciati* . . .*(He follows, followed by the sniffing terrier. The elderly bawd seizes his sleeve, the bristles of her chinmole glittering.)*

THE BAWD

Ten shillings a maidenhead. Fresh thing was never touched. Fifteen.

30 There's no-one in it only her old father that's dead drunk.

2-3 **I was just . . . the morning.** Bloom は、Molly から美顔化粧水を買ってくるよう頼まれていたので、今朝 Sweny 薬局に立ち寄り、甘扁桃<sup>かんへんとう</sup>と安息香チンキ<sup>とうか</sup>と橙花水<sup>ちゅうか</sup>などで調合する化粧水と白蠟も注文し、自分用として公衆浴場へ行くための石鹸を一つ買って受け取る。Molly の化粧品はあとで受け取りに薬局に戻りすべの代金の3 シリンダ1 ペニーはそのときに払うと約束してから、薬局を出ていく (4.467-516/ RH, 84-5参照)。しかし、Bloom は Molly 用の調合剤を取りにいくことを忘れてしまい、ここはその弁解である。

Bloom は、ここでの弁解にあるように、p. 14④, ll. 32-3 行目で化粧水を買ったことを言おうとしたのかもしれない。あるいは Molly の反撃にあつて、あわてて p. 14④, ll. 32-3 行目で言いたかった中身はこうだったと口実を作っているのかもしれない。

3 **the first thing in the morning** 前に 'I will go for it' を補って読む。

3-4 **(he pats divers . . . kidney. Ah!** Bloom は自ら調理して食べるほど鳥獣の臓物が好きであり、朝食には 'a pork kidney' を夕食に

は ‘steak and kidney pie’ を食べていた。なお、今朝朝食用の豚の臓物を買に行った際の描写に、‘His hand accepted the moist tender gland and slid it into a sidepocket’ (4.18-1/ *RH*, 60) とあった。その直前に、彼の隣家のメイドがソーセージを買って立ち去る歩き振りを見て、‘To catch up and walk behind her if she went slowly, behind her moving hams’ (4.171-2/ *RH*, 59) と Bloom は意識していた。また、Bloom は今朝レモンの香りのする石鹸を Sweny 薬局で買って公衆浴場へ行ったあと、その石鹸を新聞にくるんでポケットに入れて1日中持ち歩き、どのポケットに移しかえても、‘Ah, that soap: in my hip pocket’ (6.22/ *RH*, 87) や ‘Opening of his waistcoat. Almonds or. No. Lemons it is. Ah no, that’s the soap’ (13.1042-3/ *RH*, 375) などと気になり、この日悩まされてきた。

以上のように、この日 Bloom がポケットに入れた主な物は豚の臓物と石鹸であり、ここではその二つが重なって出ている。

- 5 **A cake of new clean lemon soap** Bloom はレモンの香りのする石鹸を Sweny 薬局で買い、一日持ち歩いている。26行目に ‘the soapsun’ とあり、また第5挿話に ‘Mr Bloom raised a cake to his nostrils. Sweet lemony wax./ —I’ll take this one, he [Bloom] said. That makes three and a penny.’ (5.512-3/ *RH*, 85) とあった。ここでは、翌朝がきて「石鹸の太陽」があがる。
- 8-9 **We’re a capital . . . the sky** リズムも脚韻も整っており、広告のコピー文としてみた場合優れたものといえよう。
- 9 **He brightens the earth** 「Bloom(花)が大地を明るくする」の意もある。
- 10-1 **appears in the disc of the soapsun** 表現に注意したい。第15挿話 “Circe” の全体が幻想戯曲ともよべるものであり、この手法で思い起こす戯曲の一つに G. Flaubert の *The Temptation of Saint Anthony* (1874) がある。D. Gifford は、ここの対比として、*The Temptation of Saint Anthony* の最後の場面の ‘The dawn appears at last; and, like the uplifted curtains of a tabernacle, golden clouds, wreathing themselves into large volutes, reveal the sky. In the very middle of it, and in the disc of the sun itself, shines the face of Jesus Christ. Anthony makes the sign of the cross and resumes his prayers’ (*UA*, p. 457) を挙げている。
- 13 **Three and a penny, please** 注 II. 2-3 参照。

- 16-26 **MARION/ (softly) Poldy! . . . He follows** この場面でも、女主人に仕える従僕のような Bloom の言動に被虐趣味が感じられる。p. 16, 注 11. 13-4 参照。
- 21 **Ti trema un poco il cuore?** = Italian: Does your heart tremble a little? Mozart の *Don Giovanni* 第一幕第三場で、好色家 Don Giovanni が農夫 Masetto と婚礼の最中の Zerlina を甘い言葉で誘惑すると、Zerlina は ‘vorrei, enon vorrei/ Mi trema un poco il cuore’ (‘I would like to and I wouldn’t like to/ My heart tremble a little’) と迷う。  
Bloom は、今朝 Molly との会話から、Boylan が企画する次の演奏旅行で彼女が *Don Giovanni* 第一幕第三場の二重奏を歌うと知り (4. 313-4/ *RH*, 63参照), 以後歌劇のこの場面のイタリ語によるセリフが彼の脳裏をしばしばよぎるのは、Don Giovanni の三角関係と自分自身のそれとが重なりあうからである。
- 23 **plump as a pampered pouter pigeon** p の頭韻を使ったこの表現は、ゆたかな声量を要求されるオペラ歌手に対する比喩としてはごく普通である。今朝 Bloom は知人の女房でソプラノ歌手である M’Coy 夫人を見下して ‘Reedy flecked soprano’ (5.184/ *RH*, 76) と意識していた。to pamper = *archaic* to feed to excess (*CED*).
- 25 **Are you sure about that Voglio?** Molly から Don Giovanni 第一幕第三場を歌うと聞いた直後、Bloom は ‘Voglio e non vorrei. Wonder if she [Molly] pronounces that right: voglio.’ (4. 327-8/ *RH*, 64) と意識していた。この場合、Bloom 自身が ‘vorrei’ (would) を間違えて ‘voglio’ (want) と引用しているのだが、あとでその誤りに気づき正している (6.238/ *RH*, 93参照)。
- 26-7 **He follows, followed . . . his sleeve** 付きまったり付きまとわれたりするこの描写には滑稽味があり、さらに付きまとわれることの嫌悪感と人間性のいかがわしさも感じられる。
- 26 **the sniffing terrier** 調理ずみの肉を持ち歩いている Bloom にくっついてきたレトリバー (前出。p. 4①, 1. 11) が変身した犬。これ以後も第15挿話では、犬は牧羊犬、セッター、マスチフ犬、ブルドック、グレイハウンド、ビークル、そして今朝葬式があった Paddy Dignam へと変化していく。この挿話は “Circe” であり、女神キルケは人間に薬を与えて魔法をかけ動物に変える術をもっており、『オデュッセイア』でもオデュッセウスの部下たち

はその魔法により豚に変えられてしまう。

26-30 **The elderly bawd . . . dead drunk.** この場面は、Bloom が遊廓の中の通りをうろつくという現実に戻ったとも、依然として幻想状態が続いているとも解釈できる。このような曖昧さも第15挿話の特色である。

27 **the bristles of her chinmole glittering** このリアルな表現に注意したい。

29 **Ten shillings a . . . touched. Fifteen.** 新鮮な魚や肉を売る感じで呼び込みをやっている。

**maidenhead**=the state of being a female VIRGIN (*LDCE*).

**Fresh thing** 「初物」 次に 'that' を補って読む。thing = chiefly as a term of endearment, pity, or contempt: a person, *esp.* a woman, a child (*SOD*). この語には俗語で 'the genitals' (*SOD*) の意がある。

**Fifteen** → She is fifteen years old

30 **in it**=a translation of "the Gaelic Ann . . . 'in existence'" (*UA*, p. 457) 「この世において」

**only**=*prep.* except (*SOD*).

**that's dead drunk** 「ぐでんぐでんに酔っぱらっている」 dead=*British colloq.* very, extremely (*COD*).

(本学教授 英文学)